



いわいしま通信

「島EXPO」に出展しました

9月6日（土）、7日（日）に大阪市のインテックス大阪で「島EXPO」が開催されました。このイベントは「2025大阪・関西万博」の開催に合わせて、日本離島センターが企画したものです。全国各地の島々から88のブースが出展し、特産品販売や観光PRを行いました。山口県からは祝島と岩国市の柱島が出展。祝島ネット21では、石積みの練塀を中心とした祝島の観光PRを主な目的として、祝島ブースを出展しました。会場は連日5千人規模の入場者で賑わいました。祝島ブースには、関西在住の祝島出身者や関係者の方々がたくさん訪ねてきてくれ、とても賑やかで楽しく、改めて出身者の皆さんの郷土愛を感じました。祝島ブースでは、特製の「祝島うちわ」を用意して、祝島ブースを背景にして記念写真を撮られた方に両日とも先着100名様にプレゼントしました。祝島を記憶にも記録にも残してもらって、さらにうちわを持って島のPRもしてもらおうという企画で、なかなか好評でした。



「島EXPO」ポスター

今回のイベントは、関西では初めての全国規模の島々のイベントでした。来年以降も開催されるかどうか未定ですが、開催された場合には、ぜひ出展したいと思います。ご来場いただいた皆さん、ありがとうございました。

目次

「島EXPO」に出展しました	1
祝島・記憶の玉手箱	2
会員リレーコラム	4
祝島自由律俳句	5
「島EXPO」参加レポート	6
祝島旅行記	8
秋の植物観察会開催	9
山歩きマップ（三浦湾編）	9
千客万来	10
福岡県の姫島を訪ねて	11
お知らせ&募集	12
編集後記	12



訪ねてくれた祝島関係者の皆さんと



説明に大忙し



特製の祝島うちわ



柱島と一緒にステージで島の紹介



「祝島物語」 画・大井しげる

<連載> 祝島・記憶の玉手箱(37) ～ 祝島の山を駆け回ったあの頃 ～

語り部: チョーちゃん、きぬちゃん

島のお年寄りに、毎回違うテーマで昔の祝島の様子を話していただく「祝島・記憶の玉手箱」シリーズ。

今回は、関西から祝島に帰省されたチョーちゃん(77歳)と奥さんのきぬちゃん(72歳)のお二人に昔話を伺いました。子供の頃、山や海を遊び回っていたチョーちゃん。話が長いので、今回は山の話をもとめました。

司会: 今日チョーちゃん達が久しぶりに島に帰ってきたけえ、昔話でも聞こうかと思って来たんよ。

チョーちゃん: 昔、言うたとして、そがい歳は違わんじやろう。

きぬちゃん: 違ういね! そいじゃが、聞くような話があるかどうか。

チョーちゃん: そういやあ、そこの守田の家は、きれいに直したのお。ありゃあ、戻ってくるんか?

きぬちゃん: 新築みたいにリフォームしちよるねえ。

司会: もともとピワの時期にゃあ、夫婦でしょっちゅう島に戻って真面目にピワ作業しようるけえね。

チョーちゃん: 守田の白崎(しらさき)のミカンは、1・2位を争うくらい美味かったんで。岩口(いわぐち)言うて、海へ降ろして船で取りに行きよったの。ピワやろ、梅やろ。梅をよおけ作りよったんど。今は誰も岩口の辺に行く人はおらんじやろう。道が・・・どっから下りよったかのう。潮が満ちたら通られんような、飛び石の向こうにあるんで。惣津以(そうづい)の手前との間に。

司会: ケーブルとかで海岸に降ろしよったんかね?

チョーちゃん: どうかのう。昔じゃけえ、背負い子で担いで降ろしたんかもしれんど。そういやあ昔は西と東にケーブルがあったらう。

司会: 東のは中学校の横から峠の所にケーブルが繋がっちゃったよね。

チョーちゃん: そうそう。わしが子どもの頃に、佐野さんというのが居ってのう・・・知らんか?

きぬちゃん: 佐野さあいうて。佐野のシゲちゃん、いうて。他所から来たんよ。大島じゃったかねえ。

チョーちゃん: そうそう、山子(やまこ)いうて、山の木を伐りよったんじゃ。木を伐って、パルプとか、薪と

か取って。辻とかで伐ってケーブルを張って、その木を例えば三浦に下ろしたりとか。わしは、森永の神名塩(しんなしお)いうて、おまえんとこの峠(とうげ)から左にずーっとカタアの方に行って、それから三浦の方に下りたところにある。いつもそこに行きよったんじゃ。

そいたら途中で佐野さんが飼いよった特牛(こっとい)に会うんよ。牛に木を引かして、ケーブルのどこまで出しよったんじゃ、あの狭い道を。怖かったんど、それが。途中で会うと避けるところが無いんじゃけえ。大きな雄の牛でなあ、辻から木を出して峠のケーブルまでなあ。狭い道を・・・今はガタガタになっちよるじやろうけど。竹やぶのところも、あれを牛で引いて出しよったんじゃあ。

きぬちゃん: その佐野さあのおじいさんもずっと山に住んじよったの?

チョーちゃん: そうそう、最初は大平(おおひら)の方に住んじよった。それから、肥の木(こいのき)いうて、氏本の山に住んで。息子さんは三浦の方から祝島の学校に通いよったらしい。

司会: 昔、山から通いよった子がおった、って聞いたことはあったねえ。

きぬちゃん: ここの森永のおじいさんも山に住んじよったんよね。

チョーちゃん: ありゃあ、帰るのがしんどいから、山にずっと泊まっちゃっただけじゃ。ははは。

司会: さっきの三浦に木を降ろすのは、どの辺りに降ろしたんかね?

チョーちゃん: どこに降ろしよったんかなあ。佐野さんが自分でケーブルを通しよったんじゃけえ。親戚のおばさんが「今までいろんな手伝いの仕事をしたけど、あれほどしんどい仕事はない」って言いよった。何百メートルいうケーブルがずっと繋がったのを担いで上がるのを手伝いに行ったら、大変じゃった言うたなあ。重たいワイヤーを運ぶんじゃからなあ。

司会: そりゃあ重労働じゃねえ。

チョーちゃん: 子どもの時に神名塩に行った時になあ。あれも佐野さんじゃが、辻から三浦に下ろすケーブルが切れてなあ。森永の大きなピワの木がパシッと真っ二

つに割れたのを見て、わあ～って思ったことがあったなあ。まあ、素人が作ったような櫓(やぐら)を通すんじゃないからなあ。今みたいに無線があるわけじゃあなし、上から旗を振って合図をせるんじゃないからなあ。

司会：そういえば、東のケーブルも、上の峠の所で旗を振りよったねえ。

チョーちゃん：そうそう、振りよったろう。それで山本のおじさんが学校の所でエンジンかけて動かしよった。あれと、西は末永の所に辻から降ろすのがあった。

司会：それにしても、よく山で遊びよったんですね。

チョーちゃん：おう、西でも東でも、よう行きよったで。惣津以から曾田のアゼノから立道の・・祝島で一番コックコーがあるんで！立道のに。三国の小屋の横の谷を上がるんじゃないが、そりゃあもう、びっしり木の上に巻いとるから、寝れるくらい！下を向いたら、いーっぱい生っちょる！コックコーは、三浦とか岩口とか言うけど、そんなもんじゃない。

きぬちゃん：よう山の名前を知っちょるねえ・・わたしらあ全然知らん。

チョーちゃん：祝島じゅう、あっちもこっちも行ったが、ありゃあ知らだったなあ。大遠(おとお)かどっかに遺跡がある言いよったろう。

司会：ああ、遺跡のようなもの、じゃね。カタアの道を終わりまで行って、もうちょっと入った所にあるんよ。

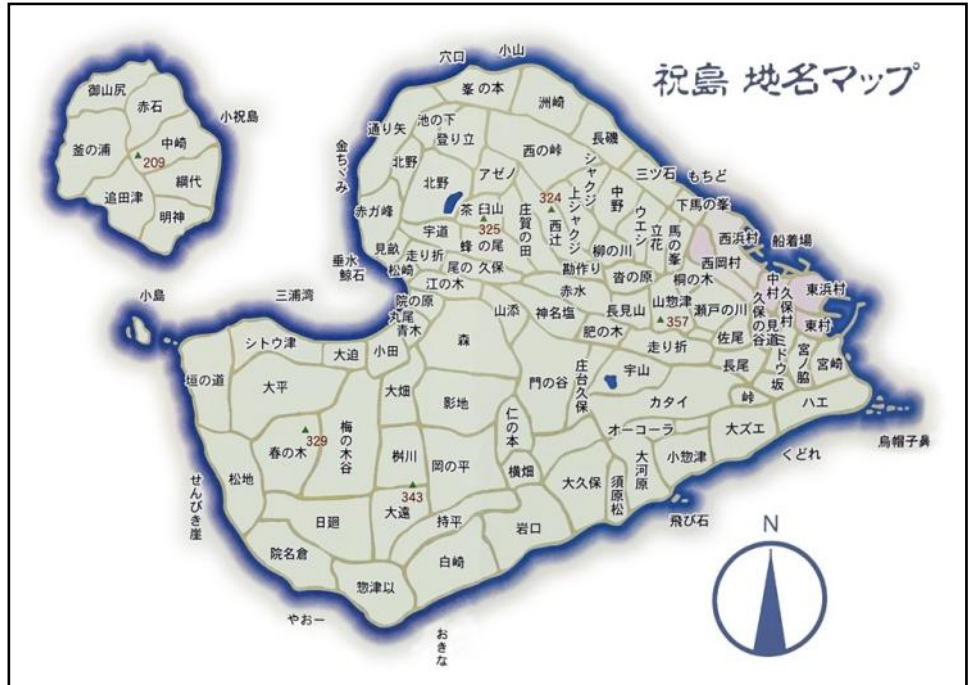
チョーちゃん：行けるんか？

司会：行ったのは20年前。今は通る人がおらんけえ藪になって通れんじやろう。そういえば、せんびき崖のフウランは採りに行ったことはある？

チョーちゃん：わしはないんよ。昔、河村のいっさーでも元気な頃に連れて行ってもらおうかと思ひよったけどねえ。ほいでも崖の上から降りなあかん、いうて。ロープで、懸垂下降で降りなあかんのやろ？春の木(はんのき)あたりから木に縛って。

司会：相当、命懸けみたいな話は聞いてますが。

チョーちゃん：そういやあ、昔、誰じゃったかなあ。あっこのフウランで女郎通いをした人がおった言うて聞い



たなあ。フウランよおけ売って、儲けてなあ。

司会：ほお～初耳。祝島のフウランは、相当魅力があるものなんじゃね。今でも大事に育ててる人はいるみたいですよ。

チョーちゃん：フウランだけじゃなく、いろんな種類の花がいっぱいあったなあ。神名塩の山を下りる時、秋になったら、菊が一面に咲いて、むせるほど香りよった。クマガイソウ、一輪草、ヒトツボクロ、セッコク、山芍薬、ニホンサクラソウ、マメツタラン、菊でもこの辺りには独特な菊があろう。

司会：子どもの頃に、山を駆け回った人たちが、懐かしがって帰ってきてくれんかねえ・・。

チョーちゃん：わしも60歳になったら、祝島に帰って、ミカン作って、放し飼いで鶏でも飼おうかなあとか思ひよったんじゃあ。神名塩の山にでも籠って・・なら、鳥インフルエンザとか出たじやろう。あれで嫌になっなあ。段々畑で鶏の放し飼い、獣がおらんけえとも思ひよったら、今はイノシシもおる言うし。

きぬちゃん：定年になった人らあが皆島に帰って、あちこち畑をやったら、祝島も賑やかになってえかろうに。

司会：そうじゃね、定年になった人は、島に帰って奉仕活動、とか規則を作ったらええかも。帰って来んかね？

チョーちゃん：向こうに花があるから、帰られんなあ。

司会：まあ、こうやって時々帰って、いろんな話を聞かせてもらえるのも楽しい・・またお願いします。今日はありがとうございました。

このコーナーは「祝島ネット21」の会員の皆さんに、自己紹介を兼ねて簡単なコラムを書いていただくコーナーです。今回は、山口県柳井市に在住の福田浩幸さんです。



福田浩幸さん 祝島にて甘夏収穫の手伝い

柳井市の福田浩幸と申します。

時は令和6年3月27日、本日はかねてから訪れてみたかった平さんの棚田を目指す為に朝6時台の便に乗船。普段島を訪れるときは10時台の便を利用しているが、今日はゆっくり散策しながら棚田を目指したい為早い便を選んだ。帰りの5時便までたっぷり時間があると思うとワクワクする。

間もなくして祝島に到着すると早朝にも係わらず國弘君が港まで出迎えてくれた。実は國弘君と奥様の優子さんとは高校時代の同級生だ。卒業後は全く音信不通だったがある時私の勤務先である『やまぐちフラワーランド』で國弘夫妻と何十年ぶりに再会。その日を境に時々祝島を訪れるようになった。

練塀の小道を通り抜け國弘旅館に到着。朝食をご馳走になり愛用のカメラを首にぶら下げ、いざ出発。練塀の登り坂を歩き出した。一人気ままに時間を使うことは贅沢なひと時。今日は現実を忘れて心身ともにリフレッシュしよう。

最初に出迎えてくれたのは朝の陽だまりで日向ぼっこをしている大勢の猫ちゃん達。「見慣れない奴だ」と言いたげな猫ちゃん達の視線を感じる。今日はお邪魔しますがよろしくね。



日向ぼっこの猫ちゃんたち

更に坂道を上ると可憐な水仙に出会った。花びらの中心がほんのりオレンジ色でとても綺麗だ。水仙の後ろにそびえる石垣にも目が行く。2段3段と積み上げられた石垣は雨風に負けず今日に至ったのだろう。



水仙と石垣

やがて道は平坦になり左手に海が開けた。海に面した斜面は日当たりがいいのか枇杷の木がたくさん植えてある。ふと枝の先にキラリと光



ケセランパセラン?

るものを発見。何かの種だ。タンポポの種を三回りくらい大きくしたサイズでこれがあの『ケセランパセラン』なのかと心が躍った。違っていても何かいいことがあるそう。

道路わきの足元に目をやると今まで見たことがない可愛い花がたくさん咲いている。ピンク色の花びらをまといキンギョソウにも似ている。



踊り子草

直ぐに國弘君にLINEしてみるとそれは『踊り子草』というらしい。なんて素敵な名前だ。道中あちこちに咲いていてなんとも可愛い姿に心が和む。薄暗い竹林を抜けると菜の花や早咲きの桜にも出会う事が出来た。木陰には背丈ほどある白いシャクの花が凛とした姿であちこちに咲き誇ってい



シャクの花

る。ああ、この時期に祝島を訪れたのは大正解だ。

途中枇杷の作業をされているご夫婦に出会った。お疲れ様です。祝島産の枇杷は柳井でも人気がある。おいしい枇杷を作るのに大変な手間がかかる事だろう。

綺麗な草花の事をお話したが実は一番心に残ったのは道筋に延々と続く石垣と廃墟になった作業小屋だ。昔は枇杷や野菜の作り手が大勢おられたのだろう。沢山の人が狭い山道をすれ違いながら行き来して活気があったと思われる。一つひとつの石を延々と積み上げられた祝島の方々の力強さ、ひたむきな根性を感じた。

枇杷畑を抜けると突然目の前に平さんの棚田が目に入り飛び込んできた。写真で見たことはあったが実物は圧巻だ。見上げるほど天高く積み上げられたそれは石ではなく岩だ。これを人の手一つで作り上げたとは。平さんにも運よくお目にかかれお断りを言って石垣の中

腹に上がらせて頂いた。ここは島の中でも特別日当たりが良さそうで青空も綺麗だ。しばらくここで遠く四国が見える海を眺めながらぼーっとさせて頂いた。ああ何もかも忘れて癒されるなあ。祝島っていいなあ。



平さんの棚田の石垣

ふと時間を見ると既に11時前。朝出発してここまで4時間もかかった。撮った写真は200枚くらい。楽しいひと時だった。國弘夫妻が心配していたらいけないのでそろそろ戻ろう。

平さんお元気で。ありがとうございました。

祝島自由律俳句(17)

このコーナーでは、読者の皆さんから「祝島」をテーマにした自由律俳句を投稿していただき、その中から何句かを紹介させていただいております。

秋雲やペダルこぎこぎ三浦まで
秋高し海を見下ろし双葉出る
染まりゆく練塀通り秋夕焼

篠崎 幸恵

懐かしや「島EXPO」に集う顔
涼風に急かされやと草刈りへ
酷暑避け昼寝が我が家の日課なり

國弘 秀人

秋のネコまあるくなって冬支度
流星群はるかより聞こゆ星のささやき
花野道雑草と呼ぶをやめし今日

國弘 優子



読者の皆様からの投句をお待ちしております。テーマは「祝島」です。応募は、メールまたは郵送にて、応募作品/作品についてのコメント(あれば)/名前(ペンネーム可)を記入して事務局までお送りください。メールのあて先は haiku@iwaishima.jp です。

『島EXPO』参加レポート

祝島ネット21では、9月6日～7日に大阪で開催された『島EXPO』に祝島ブースを出展しました。スタッフから参加レポートを寄稿いただきました。

◎岸本智恵美さんより

夢洲（ゆめしま）で開催の『大阪万博』にちなんで、となりの咲洲（さきしま）で9/6、9/7の二日間、大阪で初めて『島EXPO』が開催されました。この島イベントに、祝島ネット21としてブースを出展するかどうか打診があったとき、「大阪なら手伝える!」と、すぐに「出しましょう!」と返事をしたものの、結果、事前・事後の書類作成や、諸々の準備を國弘ご夫妻にお任せしてしまいました。すみません、そしてありがとうございました。

前日は、3人でブースの準備。当日は、東京から

ネット21会員の渡辺さんが駆けつけてくださり、スタッフは4人。アイランダー等のイベントを何度も経験されている3人とは違って、私は今回が初めての島イベントへの参加だったので、どんな様子なのか、どれくらいの人が集まるのか、という期待と不安で年甲斐もなくワクワクドキドキでした。



前日準備の様子
暖簾と写真入りのテーブル
カバーを新たに製作しました

初日、ゆっくりの出だしでしたが、どんどん人が増えてきました。今回は、物品販売はせず、祝島のアピールに専念するという形での出展でしたが、見本のヒジキや枇杷茶、Tシャツを見て、「買えませんか?」という声もあり、やはり販売があった方がよかったかも、と申し訳なく思いました。が、両日も多くの方が訪れてくれたので、スタッフ4人ではとても販売に手が回らなかったな…という状況でした。休憩時間もなかなか取れず、他のブースを回る時間もなかったので、次回は物品販売の方法が検討課題です(^_^;) このように、祝島HPを見た方や、典ちゃんはじめ祝島の人情報網で知ってくれた方がたくさん訪れてくれたおかげで、ブースの前

は元気な祝島弁が飛び交い、大賑わいになることがしばしばありました。祝島の方は、年齢や学年が違えど、「西の13区よ…」「東の2区じゃあ…」「中郷よ」「〇年卒業で



関西在住の祝島出身者が
たくさん訪ねてきてくれた

〇〇と同級生じゃが」で通じて話はずむので、中には、声を枯らして帰った方もおられました。スタッフの渡辺さんは、祝島の大药房で賑やかな様子をよくご存じなので、その情景を温かく見守ってくださいましたが、周囲の玄海島、柱島、北大東島の人たちは驚かれたと思います。さすが祝島でした。もちろん、一般の方もたくさん訪れ、祝島に興味をもって真剣に話を聞いてくださいました。中には、姉妹都市のパートナーシップを結べたら…というアメリカ人もいました。

祝島ブースは、背景が『練塀』、前の垂れ幕が『神舞、棚田、そして青い空と海』、まさに祝島の雰囲気そのもので、それをバックに写真を撮った人には祝島うちわをプレゼント!! という特典付き。これは大好評で、2日目の終了を待たずなくなってしまいました。

嬉しいことに、大阪初の『島EXPO』は、主催者の発表によると、大盛況だったようです。2日間のおもしろエピソードは、まだまだ書き足りま



アメリカ人のお客さんにも対応

せんが、こうして嬉しい報告ができることに感謝しつつ終わらせていただきます。拙文のほうご容赦ください。最後になりましたが、祝島ブースに来てくださった祝島出身の方やご家族のみなさま、多くの一般の方々、そして広く情報を共有してくださった方々に、心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

◎渡辺竜生さんより

「アイランダー」の出展がなくなって早6年、最近
は祝島へ行く時間も取れず幽霊会員状態が続いていた
ので、そろそろ何かしないとまずいなあ…と置いて
いたところに「島EXPO」への出展とスタッフ募集の
話。開催地は大阪ですが、この機を逃すと次はいつに
なるか分からないので思い切って参加しました。

イベントで祝島

の説明をするのは
久しぶりでしたの
で、開始直後はや
や戸惑いもありま
したが、しばらく
すると徐々に昔の
感覚が戻ってきま



した。國弘さんが
用意してくださ

タマのスタッフ参加の渡辺さんと
ブースを訪ねてくれた会員の中山さん

た祝島の最新情報をまとめたアンチョコの助けもあり
(大感謝!)、そのうち偽島民もしれっとお客さんと会
話できるようになりました。今回は物産販売は行わず
見本の展示のみだったため、祝島の説明に専念でき
気持ちも少し楽でした。見本のひじきやTシャツを見
て「欲しい!」というお客さんもいらっしやいました
が、そこは「ぜひ島へ来てお買い求めください!」と
来島を促してかわしました。

また、アイランダーでは近隣にお住まいの祝島出身
の方が次から次にブースを訪ねて来て昔話や近況報告
をするのが風物詩でしたが、大阪近郊にも祝島出身者
がたくさんいらっしやるようで、「島EXPO」でも同
じ状況になりました。もちろん、他のブースでも島の
出身者や縁者の訪問は珍しいことではありません。し
かし、訪問者がブースの前にそのまま長時間滞留し、
やがて同窓会や同郷会に発展する…というのは他では
あまり見られない独特の光景だと思います。祝島出身
ではない私は話の輪に加わることはできませんが、賑
やかに談笑しているみなさんの様子を見ているだけで
幸せな気分になります。

その他、祝島とは直接関係がない話ですが、この種
のイベントでブースに立つ楽しみの1つが思いがけな
い出会いです。今回のお客さんの中に遠く高知県の黒
潮町から来られた方がいて、話をしていると11月に
同地で開催される生物関係のイベントスタッフである
ことが判明。「あ、それ私も参加しますよ。〇〇の

ブースにいます。」と伝えるとその方は口をあぐり
り…。世間は狭いですね。

あと最後に1つ。祝島出身の方にお問い合わせが
あります。ブースに来たらまず素性を明かしてください。
一般のお客さんだと思って偉そうに祝島の説明を始めて
しばらく経った後に「〇〇の〇〇です。國弘さんおっ
て?」などと言われると、顔から火が出そうになるく
らい恥ずかしくなりますので…。

◎國弘優子さんより

島のイベントに出展する醍醐味の1つに、他島の
ブースの方々と話ができるということがあります。お
互いの島の様子をその島の方から直に聞くことがで
き、お互い行ってみたいと思えるような交流が
できることです。今回、お隣のブースでもあった岩国市の柱
島。実際、祝島からも近く、名前は知っていたけれど、
そこが柱島群島として4つもの島があることを初
めて知りました。島で何役もこなしながら暮らす女
性、つい最近協力隊としてやってきて牡蠣の養殖を
している男性、市役所の女性の3人と楽しく交流する
うちに、留守の時は柱島ブースを手伝ったり…行って
みたいと思えた島の1つとなりました。

「山口県」の文字に惹かれて祝島ブースに来られた
お客さまでは、実家が下関という方が一番多かった
けれど、防府、周南、光、とだんだん上関に近づいて
きたと喜んでいたら、なんと最後には大阪出身だけ
ど広島に単身赴任中の方が、「毎週のように上関の「道
の駅」の朝市に魚を買いに行く」と言われ、思わず拍
手。このイベントが祝島を知っていただくきっかけ
になり、嬉しいことでした。

多くの祝島出身者がブースを訪ねてくださったこと
にも感謝。一方、つい最近祝島に旅行に来られた方々
や、数か月後に、「民宿くにひろ」に宿泊予約が入っ
ているお客

さまたちが
お顔を見せ
ていただいた
ことにも感
謝。今回の
イベントに
手ごたえを
感じた素
晴らしい2日
間でした。



山口県の番が来た!
ステージ前に祝島の出身者が大集合

久しぶりの『祝島旅行記』シリーズは、今年のゴールデンウィークに親子3人で祝島に来られた松岡邦浩さんに寄稿していただきました。



平さんの棚田にて

はじめに

埼玉県在住の松岡と申します。私の曾祖父の代まで祝島に家族が在住していたこと、祖父、伯父、伯母、父、母、いとこが祝島をととても大切にしていることなどのご縁があって過去に数回祝島にお墓参り、行者様参り、神舞などでお伺いさせていただいています。

一昨年の夏に11名の親族大集団で祝島に訪問させていただいたのですが、その時は暑かったこと、子供が小さかったこともあり子供は行者様にお参りしていませんでした。そこで今回は少し涼しい時期である5月のGWにお墓参りと行者様参りをするを目的として今回の旅行を計画しました。

行程

- 5/1 羽田空港→松山空港→松山城→道後温泉泊
- 5/2 三津浜港→柳井港→祝島→東の浜でシーグラス拾い 海の生き物探し 民宿くにひろ泊(3泊)
- 5/3 お墓参り→行者様参り→東の浜でシーグラス拾い 海の生き物探し
- 5/4 平さんの棚田
- 5/5 シーグラス拾い→柳井港→三津浜港→松山空港→羽田空港→帰宅

今回の旅の目的

1. お墓参り
2. 行者様参り
3. 松山城

1日目

＜松山城＞ 石垣の屏風折りに迫力があり、素晴らしいかったです。また、昨年訪問した彦根城に続いて、登り石垣をみることができ良かったです。

2日目

初めて松山側から祝島へ行ってみました。

ゆったりした瀬戸内海の船旅を楽しめました。

3日目

＜お墓参り＞ 斜面から土砂が流れ込んでおり、取り除くのに時間がかかりました。

土砂崩れが起こっていた部分はコンクリート等で補強されており、また、海岸からの階段も復活していました。

＜行者様参り＞ 途中の竹林中の道上の倒れた竹の移動や、行者堂の掃除や薦などの除去をしました。

4日目

＜平さんの棚田＞ 二度目の訪問ですが、その大きさに圧倒されます。途中、くにひろさんからいただいた祝島の植物の冊子と実際の植物を照らし合わせながら植物観察をしました。鎧草や蝮草が面白かったです。

5日目

＜東の浜＞ シーグラスを集めました。東の浜には赤や紫や黄色など珍しい色のきれいなシーグラスが落ちていました。フェリーで松山に向かう途中スナメリを見ることができました。つぶらな瞳で可愛かったです。

(よくよく考えれば、帰りは四国に渡らずに、新幹線で帰った方が早く家に着いたかも。)



行者様



「祝島の植物たち(春編)」を片手に山道を歩く

「第3回うっちーさんの植物観察会」を開催しました

10月4日（土）、「第3回うっちーさんの植物観察会」を開催しました。お天気心配でしたが、当日の朝には雨が上がり、なんとか無事に開催できました。

今回の参加者は合計で12名。祝島在住の方、島に帰省していた方、県内各地から、そして遠く広島や大阪からも参加していただきました。

午前11時、観察会は学校の階段の石垣の前からスタート。石垣の隙間に生えているマルバマンネングサやボタンボウフウ、校門を通過して学校の校庭に植え



石垣に生えている植物を説明

られている不老長寿のコッコウ（シマサルナシ）や毒を持つキョウチクトウなどのお話が次から次へと出てきました。中学校の玄関前に植えられているソテツ



ボタンボウフウの若い葉は天ぷらにするとおいしい

は、咲いていた大きな花が丸い形なので雌の木なのだそう。さらにテラー道を少し登って、センニンソウ

やカラムシなどのお話。祝島のセンニンソウの花は本土に比べてひと回り大きいのだそうです。参加者の中には熱心にメモを取りながら話を聞く人も。うっちーさんの軽妙で楽しいお話で、今回もあっという間の1時間でした。



中学校の玄関前のソテツ。ここに植えられてから既に半世紀以上経っているが、ソテツは千年くらい生きるものもあるらしい

次回の植物観察会は、来年5月を予定しています。興味のある方は、ぜひご参加ください。



テラー道で記念撮影

『祝島の植物観察 山歩きマップ②「三浦湾」編』が完成しました

日本離島センターの離島人材育成基金助成事業『植物の宝島』で新たな魅力発見・祝島2の一環として製作した、『祝島植物観察 山歩きマップ②「三浦湾」編』が

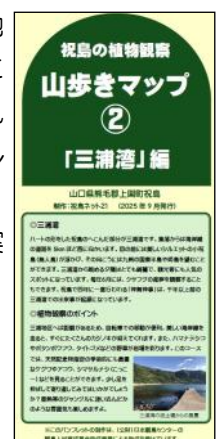


定期船待合所などで配布しています

完成しました。今年1月に制作した山歩きマップ①「平さんの棚田」編に続く、シリーズ第二弾です。

祝島の三浦湾周辺の海岸道路や山道でよく観られる植物を紹介しています。三浦湾周辺地図も載っていますので、植物観察に限らず、観光で三浦湾方面へ行かれる方のガイドマップとしても利用していただければと思います。

この山歩きマップは、祝島観光案内所や定期船待合所（祝島、室津、上関）などで配布しています。また、祝島ネット21のWebサイトからPDFデータをダウンロードできるようにもなっています。

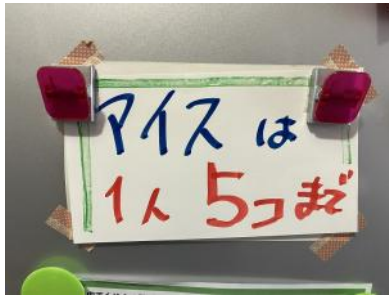


山歩きマップ②

気温が25℃を超えると「夏日」、30℃を超えると「真夏日」。2007年に追加された「猛暑日」は、35℃を超えた時の呼び方。今年の夏、気象用語として、40℃超えの日を「酷暑日」と呼ぶことを検討された気象庁。来年から使われるかもしれないあんまり嬉しくない言葉です。

本当に、昨年以上の酷暑であった今年の夏。くにひろストアのエアコンは昼夜を問わずフル回転でした。鶏卵をはじめ、食品全般あまりに高温では心配なので、電気代も気になりつつ、仕方のないことでした。これほど暑くなると、口に合わないのか、パンやお菓子はあまり売れなくなったり、冷たい素麺は・・・たとえば、「茹でるのが温うて・・・」と不評で、ほとんど売れませんでした。飲み物やアイスクリームなど冷たいものは、どんどん売れて、次の仕入れまでに完売となってしまったりもしました。最近のレンチン（レンジでチン）商品は簡単で美味しい・・・特にサバの生姜煮の冷凍食品は、おばちゃんたちの間でブームになりつつあります。

ようやく朝晩が涼しくなってきた今日この頃、かき氷系のアイスクリームを買う人は少なくなってきましたが、もなか、バニラ系のカップアイスはまだまだ



アイスは1人5コまで!

売れています。島でアイスが買えるのは、くにひろストアだけ!といわれる時期もあったため、1人5個までという、ゆるいルールで張り紙をしたこともありますが、「もうちょっと買ってもええからう」と、どさっと置かれると、ダメとも言いづらく、店主も苦笑い。たくさん売れるのは有難いんだけど・・・。

週に一度、遠く集落の上の方から来られるおばちゃんが「うちは、昼寝するときも夜も鍵をかけるようになったけえ、人が上がっちゃあこん。ここにきて話すのが楽しみなんよ」と。近所のおばちゃんが、「あんたとは遠いけえ、なかなか来れんね。ここで話して笑うて帰りんさい」と。今度はよく来るおばちゃんが「あんたあ、アイスを買って帰らんかね、凍らせちよいたら自由がええんよ。」「うら、ア



西方の上の方からわざわざ来てくれるお客さん

イスは凍らせちよかんにゃあいけまあ。溶けてしもうたら、アイスにならんじゃあ」「あはは、ばかげえなことを言うてしもうたねえ」「こりゃ笑わんにゃあいけんね」「そうそう、笑うたら長生きをせると」「へえ、それかね。ゆっくり買うて笑うて帰りんさい。わしゃあ、はあいぬる（帰る）」「ここは、えいねえ。話をせてくれる人もおるし、笑わかせてくれる人もおって」「はあ、ゆっくりしてってくださいねえ」と声をかけるわたしも、いつのまにやら笑い声になっています。こりゃ、しわが増えるわあ。

この8月から、惣菜部の値段を少し値上げさせていただきました。お米の値段だけでなく、材料費や光熱費、容器の値段までもがぐんぐん値上がりして、これまでの値段を維持できなくなってしまったので。お客さんに、ちゃんと栄養のあるもんをしっかりと食べてほしいと思っただけのことなので仕方ありません。もちろん、くにひろ農園で採れたものはしっかりと使って、しっかりと食べてもらっています。今年は、ナスの出来が良かったので、連日ナスの料理! 飽きないように調理法をいろいろにして・・・やわらかい食材なので、誰にでも食べてもらえる便利な食材です。



くにひろ農園の夏野菜たっぷりのお惣菜

最近は、島に帰って来られた方からもおかずの注文が入ったりもします。お墓参りに一泊、家の片付けに数泊などのために食材を買って帰っての御饗どん（おさんどん）は面倒だし、人が作ってくれるものは美味しく感じるものなのかも・・・帰省の度に注文して下さる方も少なくありません。これで島に帰ってきやすいと思って下さるなら、ありがたいことです。また、買い物の手事がなくても、「帰った

よ～」とお顔を見せてくださる方も案外多いのですが、これがまた嬉しくて。数か月に一度でも、年に一度でも、元気そうなお顔を見せていただけることが最高に嬉しいのです。

さて、早くも、お節料理の注文が入りました。今年はいくつ作ることになるかなあ・・・忙しい反面、楽しくもあります。みんなの喜ぶ顔を思い浮かべて頑張ります！

福岡県糸島市の姫島を訪ねて

國弘 秀人

7月3日～4日にかけて、全推連（全国離島振興推進員連絡委員会）の理事会と視察・交流会が福岡県糸島市にて開催されました。糸島市市民交流センターにて理事会が開催された後、糸島市の離島・姫島に視察に行ってきました。

姫島は、糸島市の岐志漁港から渡船「ひめしま」で約16分。糸島半島の西に浮かぶ周囲3.8kmの小さな島です。



渡船「ひめしま」

人口は約130人で、島民の多くは漁業に携わっています。

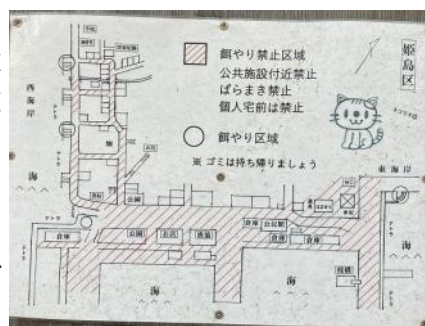
最初に案内されたのは、姫島小・志摩中姫島分校のおしゃれな木造校舎。校舎から海岸通りに出たところの防波堤には、卒業記念の絵がいくつか描かれていました。聞くところによると、初めは港の防波堤に描いていたそうですが、絵でいっぱいになった



おしゃれな木造校舎

ので、最近は海岸道路の防波堤に描いているとのことでした。島に帰ると思い出の絵が迎えてくれるのは嬉しいですね。

交流会会場まで歩いている途中で、「猫の餌やり禁止区域」の掲示を見つけました。姫島でも猫が増え過ぎて困っているようで、集落内で



猫の餌やり禁止区域

は基本的に餌やりは禁止になっていて、防波堤の出口の数か所だけ餌やり区域が指定されているようです。募金を集めて、猫の避妊・去勢手術も実施しているようでした。

さて、交流会には島の区長さんはじめ地元の方が集まっていました。自己紹介を聞くと、若い漁師さんがたくさんいるのにビックリしました。人口の半分近くが漁業に携わっているとのこと。一本釣りや網漁、貝や海藻の採取が行われているとのこと。最近は漁が減ってきたため、遊漁船もやるようになったそうです。なぜこんなに若者が島に帰ってくるのか聞いてみると、中学を卒業して島を出るときに、「高校を卒業したら島に帰ってきてくれよ！」と大人たちが若い子全員に声をかけているのだそうです。



なるほど！ 姫島には若い漁師さんがたくさんいる

お知らせ & 募集

■2025年版「祝島観光ガイドマップ」(日本語版)(英語版)ができました

2025年版「祝島観光ガイドマップ」の日本語版と英語版が完成しました。英語版は10年ぶりの改訂になります。英語版の制作には、祝島ネット21会員の杉山直子さんに翻訳をお願いし、ネイティブチェックにはアメリカ在住のテイラー・ツチャさんにご協力いただきました。ありがとうございました。ちなみに、テイラーさんのご先祖は祝島出身です。

完成したガイドマップは、祝島観光案内所などで配布しています。また、祝島ネット21、祝島観光案内所、祝島ホームページの各WebサイトでPDFデータをダウンロードすることができます。



英語版ガイドマップ

■『「植物の宝島」で新たな魅力発見・祝島2」事業報告会のお知らせ

日時：2026年1月24日(土) 10:50~12:00

場所：祝島公民館 2Fホール

- 内容：(1) 事業の概要と成果について説明 (事務局より)
(2) 植物調査についての報告 (講師・内田祐介さん)
(3) 今後の取り組みについて (事務局より)

主催：祝島ネット21

連絡先：國弘 秀人 (電話 090-8069-5066、メール kunihiro@iwaishima.jp)

◎入場は無料。どなたでも参加可能、予約不要です。

◎島外からは、定期船「いわい」2便(10:40祝島着)で来て、2便(12:30祝島発)で帰ることができます。

◎万一、悪天候で講師が来島できない場合は、1月31日(土)が予備日です。

※この事業は、(公財)日本離島センターの離島人材育成基金助成事業による助成を受けています。



今年1月の事業報告会の様子

編集後記

秋らしく爽やかな季節になりました。夏の間に草茫々になっていた我が家の畑も、少しずつ整備され、秋冬野菜が育ち始めています。さて、今回は9月に開催された「島EXPO」に出展しましたので、スタッフとして参加した皆さんの感想を掲載しました。会場の雰囲気や少しでも感じていただければと思います。人気の「うっちーさんの観察日記」のコーナーですが、うっちーさんがとってもお忙しいとのことなので、今回はお休みとさせていただきました。次号からまた再開される予定ですので楽しみにしてください。「記憶の玉手箱」のチョーちゃんのお話では、祝島の山の地名がたくさん登場しましたので、地名マップも掲載させていただきました。文字が小さいかもしれませんが、この地名マップを参照しながら読んでいただければと思います。それにしても祝島の山を駆けずり回っていたチョーちゃんは元気な子だったんでしょね。今でもいろんな花を育てたり、自家製の味噌やジャムを作ったり、とてもマメな人ですよ。実家がうちの近所なので、島に帰省してきたらまた話を聞かせてもらおうと思っています。

「いわいしま通信」次号は来年2月頃に発行予定です。どうぞお楽しみに！

(編集長：國弘秀人)

※事務局では会員の皆さんからの投稿をお待ちしております。投稿はホームページからも

可能になっておりますので、ご意見・ご感想など、お気軽に投稿してください。

※祝島ネット21では随時会員を募集しています。会費は1年間6000円です。

入会ご希望の方は事務局までご連絡ください。



祝島中学校の玄関のソテツの花

祝島ネット21会報「いわいしま通信」第77号

発行日：2025年10月23日 (頒価400円)

発行者：祝島ネット21事務局

〒742-1401 山口県熊毛郡上関町祝島

ホームページ <http://www.iwaishima.jp/inet21/>